

# AMDA Journal

## 号外

# ダイジェスト

発行：2001年7月 No.13 定価：100円  
 発行元：〒701-1202 岡山市栢津310-1  
 AMDA (アムダ)  
 TEL086-284-7730 FAX086-284-8959  
 E-mail：member@amda.or.jp  
 編集：AMDA 会員情報局  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## ミャンマー大規模水害緊急救援活動

AMDA インターナショナル ミャンマープロジェクト事務所

駐在代表 小林 哲也

5月末から断続的に降り始めた大雨により、AMDA インターナショナル ミャンマープロジェクト事務所 (以下AMDAミャンマー) がプロジェクトを実施しているメッティラ県では、6月の初めに、この75年間で初めてという大規模水害が発生しました。多くの犠牲者と被害を出したこの自然災害に対し、AMDAミャンマーは緊急救援活動を開始。生活物資の供給やトイレの建設など数多くの活動を行っています。今回は、現場の状況とこうしたAMDAの活動について報告させていただきます。

### AMDAの活動

AMDAミャンマーでは、水害発生後、直ちにまずウンドウイン市における被害状況と緊急支援ニーズの調査を開始しました。そして県知事や市長、県保健局とも連絡を取り合い、まずは①緊急生活物資の支給、②衛生管理の部分で活動を行うことを決定しました。

①についてはまず、着の身着のまま避難してきた住民にとって最も緊急度の高い、毛布と衣類の支給をウンドウイン市で行いました。メッティラ市内の衣料品店は勿論、郊外の縫製工場まで回って1700着の子供服、425着の大人用衣類、1000枚の毛布を調達し、水害後2日目の6月5日に、これらの支援物資を届けることが出来ました。現場には社会福祉省の副大臣も駆けつけており、「一番必要な時に支援物資を届けて頂き、非常に助かる。大変感謝している」との謝辞を頂きました。支援はその後メッティラ市でも行い、1000枚の毛布を6月11日に支給しました。

その後、被害調査を進めるにつれて支援のニーズがより明確になり、特に食料支援の必要性が明らかになりました。そこで両市当局からの要請を受け、1家族(約5～8人)の約1週間分の食料となる米4kg、豆1kg、塩1kg、魚の塩漬け300g、油500mlをセットにして支給することを決定。メッティラ市1194家族(約8,000人)分、ウンドウイン市463家族(約3,300人)分の食料をスタッフ総出で準備し、6月11～13日にかけて、メッティラの18村、ウンドウインの3避難所と6村を回って支給を行いました。

仏教国ミャンマーでは、個人からの食料の寄付も少なくありません。しかし残念ながら米なら米、油なら油と、大抵は1つの物資を配給することが多く、それらの物資を上手く調整することが現場で出来ていないため、ある村には米ばかり届き、他の村には油ばかり届くといった事態が発生してしまっています。そのため、そのまますぐ食事が出来るAMDAの食料セットはとても有効であり、こちらの予想以上に被災者から感謝されました。

②については、メッティラ市から要望のあった仮設トイレの建設に着手しました。これは村全体が流失してしまい、最も大きな被害を受けたテドーリー村の避難キャンプに設置したもので、男性用2ヶ所、女性用2ヶ所が6月11日に完成しました。それまでトイレがなく、あちこちで用を足していたため、下痢が多くなっていたとの報告が村の助産婦から寄せられていたが、トイレの完成後は、そうした患者が大きく減ったとの報告が届いています。



洪水で破壊されたメッティラ市郊外の村



食糧セットを配給するAMDAミャンマースタッフ

最後になりましたが、今回の救援活動に対し、AMDA会員の皆様を始めとして数多くの方々から暖かい励ましのお言葉や募金を頂戴しました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。被災地の復興にはまだ暫く時間がかかりますので、引き続き今後もご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(AMDA Journal 2001.8より抜粋)

# アフリカプロジェクト

## 第1回AMDAアフリカ会議

アフリカ地域プログラムディレクター 横森 佳世



第1回AMDAアフリカ会議 (5カ国12名が参加)

日程：2001年4月2～3日 場所：ウガンダ国 イガンガ  
会議報告：

### (1) 菅波AMDA国際ナショナル理事長からの言葉

AMDAが設立して17年、アフリカで活動を開始して10年になろうとしています。アフリカでの活動は危険な状況、インフラの未整備、厳しい生活環境など、非常に困難を伴います。そのような中で、これまでの関係者の努力によって、今やアフリカでの活動もAMDAの中で一大勢力となってきました。

アフリカでのAMDAの活動をさらに発展させるために、今回の会議で下記のことを議論していただきたく提案いたします。

- ①アフリカプロジェクトの赤字削減
- ②スムーズな業務運営の促進と支部の設立
- ③活動姉妹団体との提携と推進
- ④アフリカ多国籍緊急救援医師団の創設

とりわけアフリカ多国籍医師団の創設は、アフリカで活動を開始して以来のAMDAの夢でもあります。自然災害、人的災害に見舞われやすいアフリカ大陸において、AMDAのネットワークを生かし現地に根付いた活動によって有効な人道援助活動が行なわれることは非常に有意義なことです。

### (2) 目的の確認と討議

AMDAアフリカ支部及び事務所は、プロジェクトを推進していく上で、共通する多くの問題に直面している。それは本部がある日本から遠く、環境が厳しく、インフラが不備で、予算に乏しく、優秀な人材確保が困難などという問題を孕んでいる。

この悩みを解決すべく、AMDAアフリカファミリー(アンゴラ、ウガンダ、ケニア、ザンビア、ジブチ、ルワンダ)が一同に集い、アイデアや経験を共有し、今後の活動方法を討議することによって、プロジェクト戦略を形成し、将来へ向けてより良い活動成果を生み出すことを目指す。

アフリカ多国籍緊急救援医師団の創設。2001年9月までに参加各国がそれぞれ2チームずつ編成し、アフリカ地域で少なくとも10チームを編成する。今後の課題として、1)メンバーをどのように訓練するか 2)いかに被災地まで送るかを検討する。

(AMDA Journal 2001.6より抜粋)

## ★ウガンダプロジェクト

AMDAケニア事務所 横森 健治

新生AMDAウガンダで実施されているプロジェクトは大きく2つに分けることができます。1つはAMDAプロジェクト事務所があった当時から続くマイクロクレジットとエイズケアであり、もう1つは本年2月に誕生したAMDAウガンダ支部が、その前身のNWASEAの頃から続けている識字教育、有機農業指導、プライマリーヘルスケアです。(AMDA Journal 2001.6より抜粋)

誕生したばかりの支部ですが、活力あふれる支部です。これからもご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

## ★アンゴラプロジェクト

AMDAアンゴラ事務所 田中一弘

国内避難民救援プロジェクトはUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の実施パートナーとして、北部ザイール州の州都ムバンザ・コンゴにて、州立病院を再建するというものです。具体的にはAMDAの医師による診察、現地病院スタッフのトレーニング、医薬品・医療器具の供与、水・衛生プログラム、栄養プログラム、予防接種プログラムなどを実施しています。病院の建物自体の修復などハード面は政府が担当し、AMDAはソフト面の強化を担当しています。

このプロジェクトをより一層効果的なものにし、ムバンザコンゴの州立病院の復旧と住民の健康の向上に貢献できるよう頑張りたいと思います。(AMDA Journal 2001.5より抜粋)

## ★ケニアプロジェクト

AMDAナイロビ事務所前駐在代表 林 信秀

1997年よりケニア国内における長期プロジェクトとして、

AMDAが提唱する「健康と貧困の問題」に包括的にアプローチするABCプロジェクトが開始されました。ケニアのみならず開発途上国においては、医療や健康の問題は単独には存在しません。保健施設や医療施設、医療スタッフの絶対的な不足は大きな問題ですが、施設の設置、また医療提供システムを構築するだけでは、問題の解決とはなりません。診察を受ける患者や保健衛生状態改善を主体的に行なう地域住民が貧困に苦しんでいるために、保健医療システムにアクセスできなかったり、生活の中で衛生環境を改善する活動ができなかったりするからです。医療施設にアクセスできないというのはお金がないから診察や投薬を受けられないというだけではなく、医療施設が患者から診察料金を徴収できないため運営費を確保できず、結果として医療スタッフを常駐させることができないという悪循環を起こすこととなります。こうした現状に対し、中長期的な改善に向け住民の経済的な自立、すなわち貧困対策といったものが不可欠となります。



クリーンアップキャンペーン

ABCプロジェクトはここに焦点を置き、職業訓練とマイクロクレジットを実施することにより、住民の経済的能力を高めてもらうというものです。

AMDAはナイロビ市内にあるキベラスラム地区に住む、女性を対象にABCプロジェクトを実施しています。これまで約120名の女性がトレーニングを終了し、内40名がマイクロクレジットの対象となり、現在小規模のビジネスを行なっています。

(AMDA Journal 2001.5より抜粋)



## 中南米プロジェクト

### ホンジュラス人材育成プロジェクト

ホンジュラスプロジェクト事務所前駐在代表 前田あゆみ

1998年10月のハリケーン・ミッチにより大規模な被害を受けたホンジュラスのトロヘス、テグシガルバ市近郊スラムで、AMDAは復興支援を目的としてホンジュラス支部を設置、ペルー支部・ボリビア支部と連携を図りながら、エイズ予防教育、ヘルスポランテア育成等のプロジェクトを実施している。

2001年3月、ペルー支部とボリビア支部のメンバーを講師として招きワークショップを開催した。

#### \*ペルー支部によるエイズ教育プロジェクトワークショップ

AMDAペルーは青少年対象のエイズ予防教育プロジェクトに取り組んでいる。

今回はヘルスポランテアを対象とした1日ワークショップ、ヘルスセンタースタッフ(看護婦、ソーシャルワーカー)や高校教師を対象とした2日間のワークショップを実施、合計130名の参加者があった。

麻薬取引、レイプが深刻化しているこの地でボランティアもヘルススタッフも青少年を対象としたワークショップを開催したいと思っていたがどういふ手法を用いたらよいかわからなかった人達への良いきっかけとなった。今後、ヘルスセンターが地域や学校、ボランティアと一体となってエイズ教育に取り組む体制作りの指標となった。



サッカー場でのエイズ予防キャンペーン(ホンジュラスにて)

#### \*ボリビア支部による救急救命セミナー

AMDAボリビアは2000年度の主な活動として、医師を対象にATLS、PHTLSのコースを実施している。

今回は3日間、赤十字、緑十字、消防隊員とヘルススタッフ、医師を対象とした研修(BLS:基礎救命、PHTLS:病院搬送前救急救命、TEAM:外傷評価・処置研修、ATLS:上級救急救命研修)を紹介および実施した。

研修には準准のストライキ中であるにもかかわらず、病院、ヘルスセンターから医者32名の参加があり、熱心に講義に耳を傾ける姿を見て、ホンジュラスの未来も明るいなと感じた。

(AMDAJournal2001.5より抜粋)

## ★ルワンダプロジェクト

ABC(AMDA Bank Complex)プロジェクト

### 1)マイクロクレジット(少額融資)プログラム

1994年の大虐殺後、女性の自立を促進する目的で1998年半ばから実施。受益者にはそれぞれの事業計画より融資金額(30,000~50,000ルワンダフラン:7,500~12,500円)を決定し、12%の利息で融資を行なっている。受益者の一人スペシオさん(50)は現在返済をすべて完了。以前から雑貨を売っていたが、投資するお金が無いため、生活費の捻出がギリギリの状態だった。融資後は子どもに十分な教育を受けさせられるだけの商売ができるようになったそうだ。

### 2)縫製訓練プログラム

訓練生たちは15歳~21歳までの35人。スーツ、ワンピース、制服、赤ちゃん服、肌着、ズボンなどが縫えるようになった。このコースによって、スキルを得ることができたのが一番の変化のようだが、友だちができたことも大きな変化だったそうだ。

(AMDA Journal 2001.7より抜粋)



縫製訓練 生徒たちとその作品

## Can You Imagine?

コミュニティサービス局 岸田 典子

ジブチではダル・エル・ハナン産婦人科病院再建プロジェクトを実施している。ここには産婦人科医師伊藤まり子先生が(派遣期間2000.4~12)1500名以上の患者を診察された。12月でさえ暑く、夏はドライヤーの熱風を浴びているような気候と病院の施設も整っていない中での診療活動は想像を絶するものがある。にもか

かわらず伊藤先生は私がジブチで体調を崩しかけたときもご自身が日本から持参された薬を全部くれようとして、驚いた。ご自身が必要になったらどうするのか?と心配すると「なんとかなるわよ」と言われた。簡単に人を優先する。

ザンビアはJICAと連携したプライマリーケアとABCプロジェクトを実施している。ABCプロジェクトでは特徴として裁縫訓練のほかに識字教育も行なっている。最初は全く読み書きできない人達が数ヶ月後には皆、自分で書いた卒業の言葉を読み卒業していく。その先生がイボンヌ ムテガさんだ。彼女は2000年度のザンビアにある識字教室の先生中、最優秀の先生に選ばれた。彼女はマイクロクレジットの担当補助もしているが、マイクロクレジットの成功要素となる受益者の週1回のミーティングを「必ず行なってみせます!私ももっと勉強しま



ダル・エル・ハナン産婦人科病院で診療中の伊藤医師

すからやらせてください!」と申し出た。彼女の熱意がスラムの女性たちの自立につながっていくことを信じている。(中略)

ケニアでは相手とのミスコミュニケーションが起こりそうになるとしばしば「Can you imagine?」(想像してみてくださいよ、私の立場に立ってみてよ)、相手の理解を求めるような説明を始めるそうだ。今回のアフリカ出張で、本部で仕事をするにあたり、プロジェクト業務はもちろん相手の立場に立つことが大切だと実感した。そういう意味で今回現地のスタッフがどのように生活し、どんなことを考えているかを知る良い機会を得ることができた。

今後もミスコミュニケーションが起こったときには「Can you imagine?」の精神を発揮し、理解し合いたいと思う。

(AMDAJournal2001.2より抜粋)

## ご支援ありがとうございました

### インド西部地震緊急救援活動その後

第3次派遣 (5月7日～19日) 報告

アンジャール市の仮設病院へ医薬品を寄贈

インド地震から約4ヶ月、AMDAは救援活動の効果調査、復興事業調査のため小西司緊急救援局長をインド・グジャラート州へ派遣した。

被災地では未だにマグニチュード4以上の余震が続いており復興は遅々として進んでいない。細い路地の続くアンジャール市の古い商店街では、果物や野菜の屋台、衣料品店などなんとか倒壊を免れた店舗が細々と営業していたが、周辺住民は家屋を失って去ってしまい、暮らしは成り立っていない様子。

郊外にあった政府の病院も被災し、施設の全てが使用不能となり、今も町の運動場に仮設された4棟のプレハブ診療所での診療が続いている。この仮設病院では1日約250人の患者を診察しており、入院するような患者は減ったが、家屋を失って薬代を払えない人達も多く、病院敷地内の仮設テントで暮らしている。

AMDAは薬代を支払えない患者さんたちのため、この仮設病院に医薬品 (抗生剤、栄養補給液、気管支炎の治療薬等) を寄贈した。並んだベッドから寄贈の様子を見ていた患者さんたちからも感謝の笑顔を見た。AMDAへ緊急救援のためのご寄付を下された皆様に感謝致します。

## AMDA 緊急救援サポーター募集

緊急救援 1,000 円募金で救援チームを派遣してください

天災や人災による被災者へのAMDAの緊急救援活動は予定を立てることのできない、緊急の活動です。今年に入って実施した3回の緊急救援活動も皆様からのご支援なくしてはとうてい実施することはできませんでした。

そこでAMDAでは、緊急救援活動を応援していただける方をAMDA緊急救援サポーターとして登録していただき、緊急救援活動の速報をお送りさせていただくなど、今度の活動へのご支援を呼び掛けて参りたいと存じます。どうぞご登録をお願いいたします。

### \*登録方法

氏名・住所・電話・FAX・Eメールアドレスをお知らせください。同時に緊急救援速報をご送付させていただきますので、その送付方法をEメール・FAX・郵送より選んでください。

※緊急救援活動は予期できない活動ですから、緊急救援サポーター登録をいただきましても、ご都合に合わせてお志をお寄せいただければ幸に存じます。

問い合わせ先：AMDA事務局 小池(会員情報局)  
〒701-1202 岡山市権津310-1  
Tel 086-284-7730 Fax 086-284-8959  
Eメールは member@amda.or.jp

紹介

### 遥なる夢

国際医療貢献と地域おこし  
菅波 茂著

AMDAの展望と日本のNGO活動への提言  
(2500円を値下げ) 500円にて販売



## ご寄付のお願い

AMDAが開発途上国において充実した活動を継続していくためには多くの資金が必要です。それを支えてくださっているのは、AMDA会員の皆様を始めとする支援者の皆様からのご寄付です。どうぞAMDAの活動へのご支援、ご協力をお願いいたします。

郵便振替 口座番号 01250-2-40709  
口座名 AMDA

指定寄付の場合は、郵便振替用紙の通信欄にプロジェクト・活動国別、あるいは活動種類別 (枠内参照) 指定等を明記してください。また寄付控除を希望される場合にも、通信欄に「控除希望」とご記入ください。

1. 子ども病院プロジェクト
2. 自立支援プロジェクト
3. 地域医療プロジェクト
4. 生活向上支援プロジェクト
5. 緊急救援プロジェクト

※書き損じハガキ・未使用の切手などを集めています。

これらで得られた収益は、通信費として使用させていただきます。半年間で274,397円の新しい切手と交換していただくことができました。ご協力ありがとうございました。引き続きご協力をお願い致します。

## AMDA 緊急救援活動への参加を希望される方へ AMDA「ERネットワーク日本」へのご案内

現在AMDAでは、緊急時に迅速に活動を展開するため、参加を希望される方の登録制度の整備をすすめています。国内外でAMDAが実施する緊急救援活動にご関心をお持ちの方には是非ご登録いただきたいのご案内致します。

登録をご希望の方は下記の項目についてAMDAにご連絡下さい。ご連絡いただき次第、参加条件等詳細についてご相談させていただきます。正式な登録票をお送り致します。

なお、すでにご登録頂いている方は、今回ご登録の必要はありませんが、変更をご希望の方は別途ご連絡下さい。

お名前：ご連絡先 住所：お電話/ファクス番号：メールアドレス：参加可能分野：医師 看護師/看護婦 調整員 その他( )

問い合わせ先：AMDA事務局 小西 (緊急救援対策局長)

みなさんのちからを  
必要とする人たちが  
います

■AMDA募金箱を置いていただける方、ご連絡ください。  
TEL 086-284-7730



### ◆会費納入について

AMDAダイジェスト 発送時の宛名ラベルには以下の表示をしています。

- ・会員種別 Class5 (賛助会員)
- ・会員番号 入会順の番号
- ・会費納入期限 表示の月までに会費を納めてくださいますようお願いいたします